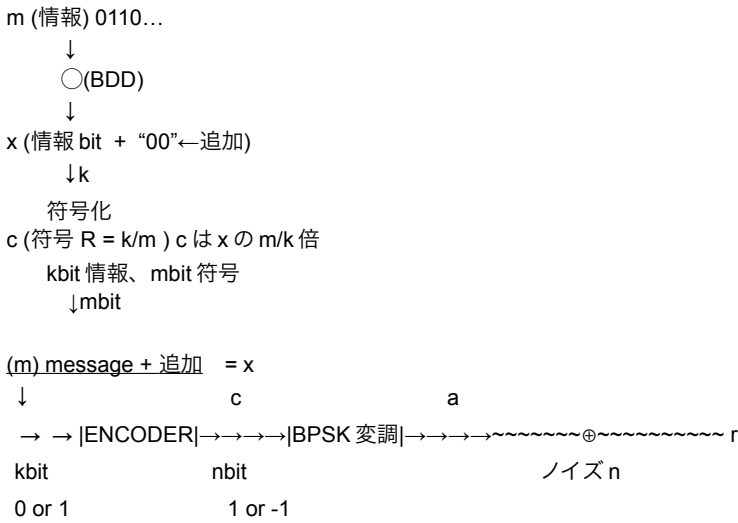


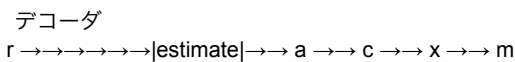
12.3.1 Introduction and Notation



- ・ 2つのチャンネルモデル
AWGN(Addictive White Gaussian Noise)
 n_i は正規分布、平均=0、分散= σ^2

- ・ negative log likelihood 関数をよく使う
- ・ トレリス ENCODER の時間での状態を Ψ_t と示す
 $v=2$
 $2^v = 4$, STATE=0,1,2,3
 $\Psi_{t=0} = 0$ とします

12.3.2 The Viterbi Algorithm



- ・ a,c のシーケンスは、ENCODER 内のトレリスの Path(道)に対応する
- ・ ノイズがあるので Path を間違える

デコーダは最も近い道を探す
この近いというのは、likelihood 関数のこと

- ・ 単純に言えば、最大尤度の Path(トレリスの道)
- ・ 全ての可能な道の尤度を全部計算して最大を見つければ良い

次回

472 の下から 6 行目 For an input... から

連絡事項

lab は 12/6(土)を予定していましたが、1/10(土)に変更します